

平成29年度 足利中央特別支援学校 学校評価結果

平成29年度努力点 評価基準 A:達成できた(80%以上) B:概ね達成できた(50～79%) C:あまり達成できていない(20～49%) D:達成できていない(19%以下)

重点目標	推進担当	達成目標（評価項目）	評価の観点	教職員自己評価	保護者アンケート	総合評価	考察	改善策	学校関係者評価の結果・改善策
1 児童生徒の自立・社会参加に向けたキャリア教育の充実を図る。 ○学部間の連携を図りながら、小学部から高等部卒業までの一貫した段階的な指導を行う。 （各学部の連携を密にしながら、子供たちの実態を十分に把握し、発達段階に応じた指導の工夫・改善を繰り返して就労を促進する。）	キャリア教育推進委員会 進路指導部	・キャリア教育全体計画を基に、既存の学習内容、活動（保護者も含めて）について見直し、精選、強化を図る。	・キャリア教育に関する学習内容、活動について、より明確なねらいを児童生徒、保護者に提示し、指導することができたか。	A:13% B:82%	A:64% B:30%	B	・保護者と比較すると、教職員への浸透が浅いといえる。保護者に対しては保護者会等で情報提供をした。日頃の学習内容、指導において、実際にはキャリア教育的な要素は十分に行っているため、あとは、教職員の意識の持ち方の問題と考えられる。	・既存の学習内容がキャリア教育につながっていることを意識できるよう、キャリア教育全体計画や各学部での指導内容について研修を行う。	・キャリア教育の内容も含め、日頃から学習の内容や様子について連絡帳等を通して保護者に情報提供をしていく。
	キャリア教育推進委員会 進路指導部	・児童生徒一人一人の進路希望を意識し、より効果的、効率的な指導の確立を目指す。	・小学部段階から児童生徒一人一人の進路希望を把握し、それに対する指導を適切に行うことができたか。	A:23% B:72%		B	・中学部、高等部では、進路希望を把握して指導にあたることができている。小学部については、教員は進路指導の研修に積極的に参加しているが、進路希望調査はまだ実施できていない。	・今年度中に小学部段階からの進路希望調査を実施し、今後は年度の早い段階で進路希望調査を行い、それに基づいた指導を行う。	・小学部段階から、保護者が子どもの将来をイメージできるよう情報提供を行い、共通理解を図りながら指導を行う。
	キャリア教育推進委員会 学習指導部	・キャリア教育全体計画を意識しながら、キャリア到達度チェック表を個別の指導計画に反映させる。	・キャリア到達度チェック表を参考にし、個別の指導計画の目標設定や評価に生かすことができたか。	A:22% B:76%	A:55% B:38%	B	・評価結果から、目標は概ね達成できたと考えられる。要因は、教員の到達度チェック表の活用や、保護者会において本校のキャリア教育について説明を行ったことが考えられる。	・本校のキャリア到達度チェック表は大綱的に示されたもので、個別の指導計画に直接反映させるには難しい点がある。今後は、児童生徒の全体像を把握したり、個別の指導計画の長期目標を設定したりするときの参考資料の一つとする。	
	特別活動部	・特別活動を通して、集団の一員として、よりよい人間関係を築くための行動や、自分の役割を意識した態度を身に付けさせる。	・運動会、みどり祭、児童生徒会活動、部活動において、集団の一員として協力して行動すること、自分の役割を意識すること等、児童生徒の発達段階に応じた指導ができたか。	A:65% B:35%		A	・評価結果から、目標は達成できたと考えられる。特に中・高等部においては部活動や児童生徒会活動があり、また出口が近いことで、より自立を意識した指導をイメージし易かったのではないかと考えられる。	・取り組みとして今後も定着を図っていきたい。小学部の特別活動の取り組みや、また重複において自立や社会参加についての意識が高まりつつあるので継続をしていきたい。	
2 防災体制の拡充や交通安全教育の充実を図る。 ○安全教育の視点到に立ち、災害や交通事故から子供たちを守る体制を拡充する。 （防災計画や危機管理マニュアルを見直しながら、保護者や地域との一層の連携を深めた立哨指導や引き渡し訓練等の改善に努める。）	健康指導部	・様々な状況を想定しながら防災訓練を実施し、災害に対応した的確な判断や行動ができるようにする。	・防災計画やマニュアル等に基づき、様々な状況をイメージして防災訓練を行うことができたか。また、その際の課題を把握し、解決に向けて検討することができたか。	A:43% B:56%	A:62% B:31%	B	・防災訓練は3回実施することができたが、今年度新たに加えた土砂災害への対応については、マニュアルを確認するに留まった。また、訓練で出た反省事項については現在検討段階にあり、すぐに反映することができていない。	・夏季休業中の防災研修で、マニュアルを確認し、個人の動きを想定するような研修内容を設定する。また、今年度の反省事項は今年度中にマニュアル内に盛り込む。	・本校で一番起こりうる災害として土砂災害が考えられるので、想定した訓練を実施していく。
	学校安全対策委員会 健康指導部	・防災体制の共通理解を図り、引き渡し訓練やマニュアル等の見直しを行う。	・引き渡し訓練における校内組織や自らの役割を理解して訓練ができたか。また、保や学部での反省を生かしながらマニュアル等の見直しを行うことができたか。	A:38% B:60%		B	・自己評価は昨年より高い数値となり、引き渡し訓練は共通理解や意識の向上を図りながら実施できたと考えられる。	・反省を生かし次年度以降の訓練方法を検討していくとともに、今年度中にマニュアル等の見直しも行いながら安全体制を構築していく。	・避難訓練の内容や方法を充実させる。（来年度、校内で避難所体験を実施する予定。）
	児童生徒指導部	・交通ルールやマナー、公共交通機関の利用等通学安全指導を行い、公共の場で児童生徒自らがトラブルを回避し、適切に判断・行動できるようにする。	・年間を通した校外での立哨指導や、交通安全週間等で各学部の児童生徒の実態に応じた交通安全指導を行うことができたか。	A:41% B:59%	A:53% B:36%	B	・交通安全教室や立哨指導、自主通学指導などの各学部の取組が理解されてきたように思う。しかし、高等部では自転車通学の生徒が出会い頭の事故に遇っている。	・4～6月の期間、主に新入生の通学の追跡指導を行い、通学路の危険箇所等を把握する。学校周辺道路の立哨指導は年間を通して行う。	
3 地域と連携した学校づくりを推進する。 ○地域の教育資源を生かした学習活動を検討・実践し、内容豊かな授業を展開する。 （開かれた学校づくりを推進し、本校の児童生徒の理解啓発に努める一方、地域の情報収集をしながら、専門的な知識・技能を有する方々を招き、授業等の充実を図る。）	渉外部地域連携係	・地域連携推進計画に基づいて、地域の教育資源を生かした学習活動を充実させる。	・地域住民や地域の諸団体を招いて授業、行事等を実施し、本校の児童生徒の理解啓発を深め、授業等の充実を図ることができたか。	A:27% B:70%	A:58% B:34%	B	・評価結果から、目標は概ね達成されたと考えられる。教職員よりも、保護者は行事や授業等で地域・関係機関の連携・協力を受け止めている。	・授業等の充実を図るためや教職員の地域の教育資源の活用の意識を高めるために、地域の人と連携した授業を検討し、実施する。 ・連携ができる地域住民や団体の情報収集、情報提供を行う。	・地域の小中学校と、地域における教育資源に関する情報の共有を図る。 ・足利、佐野の地域全体や企業に学校について知ってもらい、社会全体で障害のある人をバックアップしてもらえるように働きかけていく。
	地域支援部 センター的機能充実係	・特別支援教育についての研修など情報を提供し、開かれた学校づくりを推進する。	・様々な研修のPRと報告をすることができたか。	A:36% B:57%	A:55% B:36%	B	・評価結果から、目標は概ね達成されたと考えられる。研修後すぐにホームページに写真と共に報告をUPすることができた。	・今後もホームページ、回覧板、民児協を通じて情報提供を続けていく。 本校教員にもホームページにアップしたことを周知する。	・一般の方への学校の情報提供としてホームページを充実させる。
4 教職員一人一人が専門性の高い教育に取り組む。 ○特別支援学校教諭免許状取得率の向上と研修等を通して、専門性の向上に努める。 （特別支援学校教諭免許状取得率を80%以上にする。）	教務部現職教育係	・教職員一人一人が専門性の向上に努めるよう、研修の周知と積極的な参加の促しをする。	・教職員全員が、何らかの研修（センターの研修、他の学校の研修、外部団体主催の研修、認定講習等）に参加し、知識を深めることができたか。	A:55% B:45%	A:70% B:25%	A	・評価結果から、目標は達成できたと考えられる。	・今後も周知と促しを図っていく。2年連続でAの評価なので、来年度は評価項目から外すか、違う視点からの目標にする等、大幅に変更する必要がある。	
	教務部現職教育係 学習指導部 地域支援部	・教職員一人一人が専門性の向上を図れるように、校内研修の充実を図る。	・教職員全員が校内研修に積極的に参加し、知識・技能を高めることができたか。	A:53% B:46%		A	・評価結果から、目標は達成できたと考えられる。現職教育で計画されている研修にはほとんどの教員が参加した。計画されている以外にも数回研修を実施し、参加した教員がいた。	・専門的知識を持った教員に声をかけ、計画的に小集団での研修を実施できるように、現職教育係でコーディネートしていく。	